

米子市立山陰歴史館

歴史館だより

2025. 9. 26 第 15 号



歴史館のマスコットキャラクター
れきくん しーちゃん かんくん

企画展「～昭和100年記念～

平成生まれは知らない！？昭和の米子」



今年は昭和元年(1926)から数えて、100年目にあたる節目の年です。米子市は、昭和2年(1927)に市制が施行され、戦争や戦後の混乱・復興を経験した、「昭和」という激動の時代と共に歩んできました。活気や情緒に溢れた昭和の暮らしは、現代の若者が知らないような魅力に満ちています。この展覧会では、戦後以降の暮らしや、米子の町の様子について、「平成生まれは知らない！？」の視点から昭和の米子の歴史を紹介します！

【関連事業】※詳細はホームページ等をご確認ください

●鉄道模型「N ゲージ展示運転・操作体験」

会期中複数日実施、要企画展観覧料

●「米子市役所旧館(現山陰歴史館)館内見学ツアー」

日程：10/4(土)、11/24(月振)、12/14(日)

時間：午前/10時～11時、午後/14時～15時

場所：山陰歴史館ロビー集合

他：要企画展観覧料

●「米子の昭和の建物めぐり(米子旧市街地)」

日時：10/26(日)13時～15時半

場所：山陰歴史館ロビー集合

定員：電話申込先着 20名(申込先：山陰歴史館)

参加費：500円

会 期 令和7年9月28日(日)～12月28日(日)

開館時間 午前9時半～18時(17時半が最終入館時間です)

休 館 日 毎週火曜日、10月18日(土)、年末年始(12月29日～1月3日)

会 場 米子市立山陰歴史館1階 第1展示室

観 覧 料 一般・300円(15名以上の団体1名250円)

70歳以上、大学生以下、障がいのある方(介護者1名含)は無料

※11月15日(土)16日(日)は「関西文化の日」のため無料

主 催 米子市・米子市教育委員会・(一財)米子市文化財団米子市立山陰歴史館

寄贈品紹介 「薬調剤用天秤ばかり」

平成7年頃まで米子市角盤町二丁目で営業していた「カクバン薬局」（昭和4年開業）で使用されていた資料約50点を寄贈いただきました。

上皿天秤やフラスコ・試験管・薬匙など薬の調剤にかかわる道具や薬瓶などがありますが、写真で紹介するのは、高さ33cmほどの木製の調剤用天秤ばかり（ガラス箱入り）で、「秤量二拾瓦 感量拾匁」と刻まれています。「瓦=g（グラム）」「匁=mg（ミリグラム）」であり、薬の調剤には厳密に測定できる精度が求められたことがわかります。病院や薬局などの秤は特定計量器といって、法律により検定を受ける必要があります。引き出しの中には昔学校の理科の実験でも使った分銅セットが収められていますが、「35年度合格鳥取県」「昭和36年度合格鳥取県」のシールが貼られており、昭和30年代まで使われていたことがわかります。



薬調剤用天秤ばかり

米子錦ライオンズクラブ助成事業 第52回郷土の歴史教室「戦争の歴史を学ぶ 子どもバスツアー」

「郷土の歴史教室」は、子どもたちに、郷土・米子の歴史について関心を持ち学んでもらうことを目的に、毎年米子錦ライオンズクラブの助成を得て開催しています。

今年の歴史教室は、戦後80年の節目ということで、郷土米子の戦争に関する歴史を学習するために8月8日（金）「戦争の歴史を学ぶ子どもバスツアー」を実施しました。

当日は夏空のもと、市内外の小学4~6年生26名が参加しました。午前中に企画展「戦後80年未来へ伝える昭和の戦争」（会場：米子市美術館）を学芸員の解説で観覧した後、米子市役所の食堂で昼食をとりました。午後からはバスで巡回し、粟嶋神社（米子市彦名町）忠魂碑の見学、米子市指定史跡・旧海軍航空隊1号飛行機用掩体（米子市大篠津町）の見学、海軍航空隊基地のあった航空自衛隊美保基地（境港市小篠津町）の資料館などの見学を行いました。今回の歴史教室を通し、参加した児童は地域の戦争被害の悲惨さや当時の人々の過酷な暮らしを知り、郷土の戦争遺跡などについて初めて認識する機会となったようです。参加した子どもたちにとって、平和の大切さについて考える体験となれば幸いです。



▲左から、企画展観覧、粟嶋神社忠魂碑見学、1号飛行機用掩体見学の様子

展示品紹介・米子市指定有形文化財「桃形兜」

ももなりかぶと

桃形兜は、戦国時代に発生した変わり兜の中でも先駆けをなすもので、安土桃山から江戸時代初期にかけて西日本で流行しました。本例は戦国武将・吉川元春が宗形神社（米子市宗像）に奉納したものと伝えられ、代表的な桃形兜のひとつとして知られています。兜鉢は、よく鍛えた鉄板を矧ぎ合わせ、腰巻板をついだ6枚張。左右の合わせ目に鋭い鎧を立てて桃形とします。当世風眉庇には、前立を取り付ける一本角元が装着されています。表面は金箔押しの上から漆を塗った仕上げとなって飴色を呈しています。鎧に取り付けた吹返しは小型で、当世兜の特徴を表しています。頸部を保護する鎧は黒漆塗りした鉄板5枚を素懸に懸け垂らし、肩当たりの左右を割った日根野鎧となっています。

桃形兜は、平成29年に米子市へ寄贈されました。常設展示（米子城資料）で展示中です。



米子市指定有形文化財「桃形兜」

旧米子町役場復元プロジェクト

大正6年（1917）12月に完成し、昭和4年（1929）3月の火災により焼失した旧米子町役場の青焼図面が、鳥取市歴史博物館に所蔵されていることが、令和5年度に同館より情報提供されました。その画像データを入手して調査したところ、青焼図面に「原」の印鑑を確認し、設計者である原八十吉（1882～1930）が作成したものであることがわかりました。原八十吉は、国登録有形文化財の米子専門大店ビルなど、米子で数多くの洋風建築を手がけた建築家で、現在の鳥取市青谷町出身です。

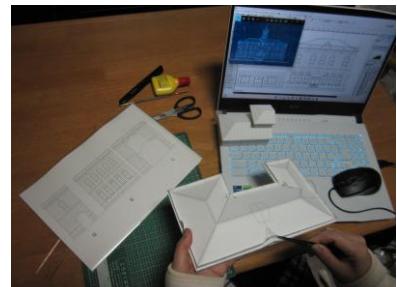
その後、令和5年度の米子市立山陰歴史館の企画展「山陰歴史館の記憶」（会期：令和5年11月19日～令和6年1月21日）において青焼図面を一部借用し、展示公開を行いました。

令和6年秋、焼失した旧米子町役場のかつての姿を視覚的に理解しやすくするために、鳥取市歴史博物館が所蔵する青焼図面をもとに立体的な模型制作を検討する「旧米子町役場復元プロジェクト」を、鳥取市歴史博物館、鳥取市あおや郷土館、当館の3館で立ち上げました。

発見された青焼図面や当時の写真をもとに検討し、模型制作については、これまで米子城や上淀廃寺などの模型（※ペーパークラフト）を手掛けてきた鳥取県美術家協会会員の洋画家 浜野洋一氏（米子市在住）に依頼し、1/100スケールのペーパークラフト模型を制作していただきました。

模型は令和7年2月15日に完成し、令和7年2月22日から3月23日まで鳥取市あおや郷土館で開催された、企画展「あおやのあんなとこ こんなとこPart1」で、原八十吉の業績紹介とともに初披露されました。現在模型は、山陰歴史館玄関ホールで常設展示しています。

模型制作風景



学芸員が、普段から他館の学芸員との情報交換を行う中で、調査研究の成果が実を結んだプロジェクトでした。今後も引き続き、郷土の歴史に関する情報収集・調査研究に努めてまいります。



在りし日の旧米子町役場



完成した旧米子町役場模型

令和 7 年度の今後の主な展示予定（9 月以降）

事業名	内容・観覧料等	開催日又は実施期間
常設展 米子城展、昔の暮らし展、 鉄道のまち 米子の歴史展 昭和の学校、弓浜絣展	国史跡米子城跡、尾高城跡、鉄道資料、民俗資料、昭和の学校、米子の遺跡など郷土の歴史を通して、人々の暮らしの様子を紹介しています。 【観覧無料】	通年・随時展示替
企画展 「～昭和 100 年記念～平成生まれは知らない！？ 昭和の米子」	昭和元年から数えて 100 年を記念して、戦後の活気や情緒に溢れた米子の歴史を振り返ります。 観覧料：300 円	9 月 28 日(日)～ 12 月 28 日(日) ※10 月 18 日(土) 臨時休館
企画展 「山陰歴史館から出発進行～鉄道資料で仮想旅行～（仮称）」	切符や時刻表、ヘッドマーク等の館蔵鉄道資料や写真を展示し、鉄道の旅の歴史を展示 観覧料：300 円	令和 8 年 1 月 18 日(日)～ 3 月 29 日(日)

米子市立山陰歴史館

開館時間 9:30～18:00 (17:30 までに入館)

休館日：毎週火曜日 祝日の翌日 12 月 29 日～1 月 3 日



〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 番地
電話/0859-22-7161 fax/0859-22-7160

<https://yonagobunka.net/rekishi/>

E-mail: saninrekishikan@dear.net.jp [編集：中原]